



# 楓の誉

R4.3.24(第12号)  
文責: 瀬上 佳宏

## お天道様は見ている

桜の蕾みも膨らみ始め、本格的な春を迎えようとしています。本日で令和三年度の教育課程が修了となります。

さて、下段にも書いていますが、オンラインで開催した学習発表会、その最後に高橋 誉教頭が行った講評の中に、印象的な内容がありましたので、再度ここで紹介します。それは「人を指さす時(人差し指で)、残りの三本(中指・薬指・小指)は自分の方を向いている。他者に対しては何かを求めようとすると、自分自身をその三倍見つめる必要がある」というものでした。まさしく、本校が重視している人権教育の視点からも、また最近、私(校長)が呼びかけている「国際的視野を広げる」という視点からも、生徒たちの心に大きなインパクトを与えるものだったと思っています。

その際、ふと私は、「残りの一本の指(親指)はどちらを向いているのか?」と思いました。そうです。親指は「天」を向いています。

中島 栄治 合志市教育長が提言されている志合わせて夢実現プロジェクトは、皆様ご承知だと思います。それらが達成された一つの姿として、「人が(とりわけ教師が)見ていないところでもきちんとしてやる生徒」に育てたいと、中島 教育長はよく語られます。具体的に言う



中学校 学習発表会

なら、学校では自習時間や掃除時間等、家庭では家事の手伝いや自主学習等、地域では地域の方々への挨拶や自転車の乗り方等、いろんな場面が考えられます。昔から「お天道様は見ている」ということわざがありますが、「人が見ていないところでもきちんとしてやる」ということは、単に「陰日向が無い」や「正直者」という性格を超え、天に恥じない生き方、言い換えれば、本校教育目標の「夢と誇りを持ち、自分らしく主体的に行動できる」ということに他ならないと、私は思っています。

学校便りの前月号に「四半世紀後を見据えて」という記事を書きましたが、実は、「二十五年も後に成果を求めめるのは、あまりに無責任ではないか。一年一年で勝負し、成果を出していくべきでは。」という旨のご指摘をいただきました。確かに行政の出先機関である学校は、税金を使って運営しているのですから、ご指摘はごもっともな部分があります。それでは、四半世紀後に想定される成果をどう評価するのか……。そこに、「人が見ていないところでもきちんとしてやる生徒」をどれだけ育てられたかがあると思っています。なぜなら、それができる生徒は、四半世紀後、つまり四十七歳前後の油がのりきった仕事人・家庭人となつた頃にも、必ずや夢と誇りを持って、主体的に人生を送っているはずだからです。

「指さす一本は相手、三本は自分自身、そしてもう一本は天」。これを「フレミングの左手の法則」に準えて、「楓の誉の右手の法則」と名付けたいのですが、如何でしょうか。

このような思いから、次年度のさらなる合志楓の森中学校の飛躍を心に秘め、令和三年度を閉じたいと思います。保護者の皆様、地域や関係機関の皆様、ご理解・ご協力、誠にありがとうございました。

## みんな、やりきったね!! (オンライン学習発表会)

十一日(金)、オンラインによる学習発表会を行いました。その動画は、三十一日までYouTubeでオンデマンド配信していますので、まだご視聴いただいている方は、ぜひともご覧いただきたいと思っています。当日は、(株)クラウドI・Aのご協力により、本校体育館のステージに本格的なセットを組み、集音マイク3個にカメラ5台の映像、スライド画面をミックスし、スタイリッシュな映像となるよう演出して配信しました。



発表内容は動画を視聴していただくのが一番なので割愛しますが、一、二年生ともに、内容はもちろん、語りや態度もこれまでの中で最も仕上がったプレゼンを見せてくれました。ただし、二年生は学年閉鎖になったため、前日に録画した映像を配信しました。もう一回発表できたなら、さらに洗練されたプレゼンになったろうにと、少し残念です。しかし、発表し終えた一年生の「やりきった」という表情を見て、私はとても嬉しくなりました。

なぜ本校が「プレゼン教育」に力を入れているかも動画冒頭の校長挨拶で説明していますが、このような活動は、来年度以降もぜひ継続していきたいと思っています。二年生はもう一回、一年生はあと二回もチャンスがあります。今回は代表に選ばれなかった生徒たちも来年度を目指し、普段の授業から意識してプレゼン力を磨いてくれたらいいと思います。



学校HPのQRコード